

第 5 回国際野生動物管理学会議 (IWMC2015) シンポジウム  
「知床国立公園における野生動物の保全と管理 2015」企画 (案)  
Wildlife conservation and management in Shiretoko National Park, 2015

知床国立公園野生動物の保全と管理シンポジウム実行委員会

**【背景】**

知床は、1964 年に国立公園に指定されました。ヒグマやシャチなどの大型哺乳類や絶滅危惧種であるシマフクロウなどの野生動物が豊富に生息していること、流氷が到来する海域と原始的な森林が残る陸域が、相互に関連しあい一体となって生態系を形づくっていること、火山活動や浸食によって雄大な自然景観がみられることなどが特徴です。この特徴的な生態系を有し、生物多様性保全上重要な生物が生育・生息する地域であることが評価され、2005 年には世界自然遺産に登録されました。

ロシア連邦東部、沿海地方のシホテアリン自然保護区は、知床に最も近い世界自然遺産地域で 2001 年に登録されています。動物相は知床との共通点が多く、さらには国内では絶滅してしまったオオカミやカワウソが生息しています。シホテアリンと知床を比較することで、国立公園管理や絶滅危惧種の保全に向けた取り組みが一層進むことが期待され、知床博物館や (公財) 知床財団などを中心に交流事業が始まっています。

一方、北アメリカのイエローストーン国立公園は、世界初の国立公園として 1872 年に制定され、1978 年に世界自然遺産となりました。活火山と地熱活動、原始的な自然植生、豊富な野生動物の存在など、知床国立公園と多くの共通点を持っています。特に、ヒグマと同種であるハイイログマと人間との軋轢、エゾシカに近いエルクをはじめとするシカ科動物の増加とその生態系に及ぼす影響などが公園管理上の大きな問題となっています。また、両国立公園ともにレクリエーションの場として文化的に高い価値を持ち、年間 200 万人以上の利用者を抱え、「保全と利用」という共通の課題を持っています。

2005 年 7 月に札幌市で開かれた第 9 回国際哺乳類学会議 (IX International Mammalogical Congress) において、野生動物の管理に関わる研究者や行政担当者が一同に会し、シンポジウム「知床とイエローストーン：代表的な国立公園における哺乳類管理の比較」を開催しました。このシンポジウムでは、ヒグマとグリズリー、エゾシカとエルク、アカギツネとコヨーテ、オオカミ再導入など、野生動物の保護管理について比較を行い、さらには国立公園の歴史や社会学的な諸問題について幅広い議論を行いました。シンポジウムとその後に行われた知床へのエクスカージョンの成果は「世界自然遺産 知床とイエローストーン 野生をめぐるとの国立公園の物語 (デール・R・マッカロー、梶光一、山中正実編著)」にまとめられています。

## 【企画主旨】

知床が世界自然遺産地域に指定されてから 10 周年の節目にあたる 2015 年 7 月に、日本哺乳類学会 (The Mammal Society of Japan) と米国野生動物学会 (The Wildlife Society) の共催により、第 5 回国際野生動物管理学会が札幌市で開催されることになりました。そこで、知床国立公園におけるこれまでの野生動物管理における歩みを振り返り、イエローストーン国立公園やシホテアリン自然保護区の野生動物管理に関わる方々をお招きして、今後 10 年間を見据えた国立公園における保全管理の課題と展望について議論するため、本シンポジウムを提案します。

## 【内容 (案)】

### 1. シンポジウム

- 1) 大型有蹄類の過剰と生態系管理  
～人為的管理と自然調節の視点から話題提供と議論を行う
- 2) 大型食肉類の保全と管理  
～大型食肉類の研究者の視点から話題提供と議論を行う
- 3) 国立公園における管理方針・保全と利用の調整  
～管理者側の視点から話題提供と議論を行う

### 2. エクスカーション

シンポジウム終了後、知床国立公園のフィールド視察 (3 泊 4 日)

### 3. タウンミーティング

研究者、行政関係者、地域住民が一堂に会し、知床国立公園における野生動物の保全と管理に関する議論を行う場を設定する。

## 【開催期間】

### 1. シンポジウム

第 5 回国際野生動物管理学会開催期間

2015 年 7 月 26 日 (日) ～30 日 (木) の 1 日間

### 2. エクスカーション

2015 年 7 月 31 日 (金) ～8 月 3 日 (月) の 4 日間

【招聘予定者】

- ・ Dr. Charles C. Schwartz (Grizzly Bear Study Team, U.S.A)
- ・ Dr. Peter J. P. Gogan (USGS, U.S.A)
- ・ イエローストーン国立公園局から 1 名
- ・ シホテアリン自然保護区から 1～2 名

【実行委員会メンバー（案）】

宇野裕之	(北海道立総合研究機構・環境科学研究センター)
間野 勉	(北海道立総合研究機構環境・地質研究本部)
山中正実	(斜里町立知床博物館)
村上隆広	(斜里町立知床博物館)
増田 泰	(公財) 知床財団
石名坂 豪	(公財) 知床財団
梶 光一	(東京農工大学)
吉田剛司	(酪農学園大学)
岡田秀明	(斜里町)
田澤道広	(羅臼町)
中島慶次	(環境省釧路自然環境事務所)
谷川真弓子	(フリーランス)